



道徳文

五

土岐文庫
文庫17
W45
5



文庫 17
W45
5

010185145070

昭和六十年二月一日
土田喜蔵氏
贈

上の巻と下の巻の間に……
……既……
上の思……
彼……各右の體……
れ……の時代……
……集……
二……
に……載……
つ……を……

万葉集卷五之考
入るる集の考
ふま集の考
おち集の考
は集の考
且集の考
入るる集の考

此集の撰入又よお岡ありが是れ好善の類也

是れは集の撰入は二指あり又は人の撰入あり

これ依る所のまゝに集りて拍子も是も集の二つ體なる言

いふは集の撰入は或は海山の撰或は草木の撰

より集りて集りて不意に同様の集りて

は集りて集りて載るものぞ

○入るる集りて集りての初めは集りての度上集りて

るの上より集りて又集りての撰出る同様の集り

入るる集りて集りての撰出る同様の集り

万葉集卷五之考

古今相聞哥下

今わらふ心迹心緒て入標あらむ
除くこころわらのまゝにわらむ

吾背子乎且今且今跡（案）三よ入るる集のまゝに且今日且今日待居

尔夜更深去者嘆鶴鴨（案）ヨノフケヌレバナゲキツルカモ

玉釧（案）タマクシロ卷宿妹母有者許増（案）アラバゴソ夜之長毛（案）ヨヒノナカキモ歡有倍吉（案）ウレシカルベキ

一夜のりをよむと

人妻爾言者誰事（案）ヒトツメニイフハタガコト他妻の言人違（案）サゴロモノ酢衣乃（案）サロモノ此紐解跡言（案）トケ

者孰言（案）タガコト



増をけ次の中
とくもあやむ
こころは
れをわらふ

如是許將戀物其跡知者其夜者由多尔カクコヒン。有益ニタカク。物乎。

戀乍毛後將相跡思許增おまのオカ。已命乎。長欲為禮。

今者吾者將死與吾妹不相而念渡者安毛無シテハ。物乎。

ど末の言

我背子之將來跡語之夜者過去スナハ。思咲ハ更シエヤサラ

更思許理來目八面サラシコリコ。待待。今者吾者將死與吾妹不相而念渡者安毛無シテハ。物乎。

○思加阿理の加阿の約か

人言之讒乎聞而玉梓之道毛不相ヨチニモアハシト。常云吾妹ツ子イワガモ

オハムラモウシトモヘバ

不相毛懈常念者是とほハ。彌益二人言繁所聞來可聞。

里人毛謂告我補カタリツダガ子。都牙コハカ。都我補コハカ。又其

縱咲也思意而毛將死誰名將有哉タカナナラメヤ。我死ハ妹のお思ハぬた

蓋雲吾意死者誰名將有裳

慥使乎無跡情乎曾使爾遣之夢所見哉ニニエキ。

天地尔少不至丈夫跡スコミ。思之吾耶雄心登所云人

毛無寸。

里近家哉應居クイエヤフルベキ。此吾目之人目毛里乍ヒトノモリツバ。今本乎為と

おふらや 戀繁口

何時奈毛不意有登者雖不有得田互比来

意之繁母 今本より互と直に復まら

黒玉之宿而之晚乃 物念爾割西胸者息時裳無

三空去名之惜毛 吾者無不相數多年之經者

得管二毛 今見牡鹿 夢耳手本纏

宿登見者辛苦毛

或本後句云吾妹見乎... 〇氏志て群... 二つありその... 上のその象之の條

立而居為便乃田時毛今者無君之目不見而月之經去

者 或本を今本妹不相而... 依時を... 或本の異...

不相而意度等母忘哉彌日異者思益等母

外目毛君之光儀乎見而者社 吾憲山目命不死者

見牡鹿... 吾憲山目命不死者... 外目... 命對吾憲止目...

曾命對吾憲止目... 如何將暮

意管母今日者在目杼玉匣將開明日如何將暮

意管母今日者在目杼玉匣將開明日如何將暮

意管母今日者在目杼玉匣將開明日如何將暮

注云一云壽向吾意止目... 俗注云と慈や

左夜深而妹乎念出布妙之枕毛衣世二。オモヒデ、シキ上。嘆鶴鴨。ヒト他言者真言痛成友彼所将障吾爾不有國。マコトコチタク、ヌ、ツコニサハラム、ナラナクニ

立居田時毛不知吾意天津空有土者踐鞞。テル、コロ不相日乎多美。

世間之人辭常所念莫真曾憲之。ヒトノコト、ト、オモホスナ、マコト、ゴヒシ不相日乎多美。まじふ、グの妻

乞如何吾幾許憲流吾妹子之不相跡言流事毛有莫國。イデイカニ、フカコ、マ、アハジトイヘル

夜于玉之夜乎長鴨吾背子之夢爾夢西所見還良武。ナガミカモ、ニシ、ミ、エカル

荒玉之年緒長如此憲者信吾命全有目八目。アハタカラメヤモ

思遣為便乃田時毛吾者無不相數多月之經去者。アハステア、マタ、スレ上。お

手の好まそ
ト、ハ、

朝去而暮者來座君故爾忌忌久毛吾者歎鶴鴨。アサニキテ、ユフ、ハ、イ、ユシク、モ、ウ、ハ

從聞物乎念者我胸者破而摧而鋒心無。キ、シヨリ、トコ、ロ、モ、ナシ

人言乎繁三言痛三我妹子一去月從未相可母。イニシツキヨリ、イ、ダ、ア、ハ、マ、カ、モ

歌方毛。ウタカタ、モ、ニハ、カ、ミこの潦水の上は浮沫の、ゆ、ゆ、空像て、い、言、る、事、冠、輝、考、の、水、乃、
味の條より、か、く、は、と、ハ、卷九、卷十二い、ま、う、ち、く、あ、う、く、は、め、い、ま、う、ち、

曰管毛有鹿吾有者地庭不落空消共。イヒツ、モ、アル、カ、ツチニハ、オチニ、ツラシケ、マ、イ、モ、今、本、共、
を、生、

倭作也。○妹ハ未あやうげといひ、吾んくく有、ハ、打、捨、る、子、ハ、セ、シ、余、ハ、美、ふ、と、も、
と、い、ハ、托、言、者、ハ、ト、の、二、言、ハ、未、ハ、今、の、ご、ん、と、あ、う、く、く、は、ま、う、ち、く、あ、う、く、は、め、い、ま、う、ち、

土よおらんも。卷七零雪の虚空可消雖恋およ、ち、く、く、は、月、を、居、ま、い、ま、う、ち、
か、く、く、あ、う、く、く、は、め、い、ま、う、ち、
且、け、言、ハ、消、る、よ、あ、い、づ、ら、
い、ま、う、ち、
り、の、ま、い、づ、ら、

何日之時可毛吾妹子之裳引之容儀朝尔食尔将見。イカナラン、スガタ、アサニケニシム、朝

何日之時可毛吾妹子之裳引之容儀朝尔食尔将見。イカナラン、スガタ、アサニケニシム、朝

けすハ進むを本
より記す伊須之伎
比賣後阿彌須
志疑ふのみす
三ふらむは
ハ理阿今ハ阿
あは一本阿字
れ、遍昭の
阿あやめは
集二二

迹云依用婆比迹阿理多々斯用婆比迹阿理如用波勢婆多知賀遠母
伊麻陀登加受豆波須比遠母伊麻陀登加泥婆云々

丈夫之サトキコロモ聰神毛きんじん今者無意之いまはなげ

奴尔吾者可死こゝろをばつかさるゝ奴こゝろをばつかさるゝ即すなはち死し今者無意之いまはなげ

常如是つねに意者こゝろをばつかさるゝ辛苦くるしみ暫毛しばらく心安目六事許為與こゝろをばつかさるゝ

凡尔吾之念者人妻爾有云妹爾意管有米也いとせうは

心者千重百重思有杼人目乎多見妹爾不相可母こゝろをばつかさるゝ

人目多見眼社忍禮小毛心中爾吾念莫國こゝろをばつかさるゝ

人見而事害目不為夢爾吾今夜将至屋戸閉勿勤こゝろをばつかさるゝ

何時左右二将生命曾凡者意乍不有者いつのとき死上し

有あり今日吾爾文財日他人言乎不有者けふ死上し

愛等念吾妹乎夢見而起而探爾無之不怜いとせうは

妹登曰者無礼恐いとせうは然為蟹しかるは懸卷けんまき

欲ほつ妹いとせうは言爾有鴨ことばに

玉勝間たまに相登云者誰有香相有時左倍面隱為たまに

寤香うき妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

妹之来座有夢可毛吾香惑流意之繁爾うき

大方者何鴨將憲言舉不為（三）妹爾依宿牟年者近綬

今中侵とまよふ一不ふつ。妹が母父のゆゑをさしおしむる。

二為而結之紐乎一為而吾者解不見直相及者

終命此者不念唯毛妹爾不相言乎之曾念（言ハ事）

幼婦者同情須更止時毛無久將見等曾念

夕夫者於君將相跡念許憎日之晚毛娛有家禮

直今日毛君爾波相目跡人言乎繁不相而憲度鴨

世間尔憲將繁跡（今中ふけ上の末二二句如是許將忠物表常々未同）

不念者君之手本乎不枕夜毛有寸

緑兒之為社乳母者（今中社を杜下誤ア）求云（乳飲）

哉君之於毛求覽（上の乳母知毛も）

悔毛老尔来鴨我背子之求流乳母尔行益物乎（此中女の）

浦觸而（の約備之仍下の末）可例西袖叫又卷者

過西憲也亂今可聞（或從るも）

各寺師（己が）

その子と果すと三
いつまでもと
卯より我れん乃
上よまへん

○一友と一友と
まよふ友と

ついでに友らへ
ハ未六の言ふあり
○畧々言の濁
次の言ふ所す即け
後の言ふ所す即け
て一辨ちをす
畧々言の濁
子教へたまふなり
○後撰某ふおの
ちちりおれしよ
ひんごうすや

人死為良思。妹爾寤日異羸沼人丹不知所知。コヒ、ヒニナニヤロス。ニシラレテ、言ふ人あらずん

夕々吾立待爾若雲。君不来益者應辛。夕々、トシク。モシクモ、四言の句ハ上下まじらぬ。君不来益者、應辛、ケレシカラ

生代尔寤云物乎。相不見者。寤中爾毛。吾曾苦寸。イナルヨニ、トシクモ、四言の句ハ上下まじらぬ。君不来益者、應辛、ケレシカラ

念管座者苦毛。夜于玉之夜。爾至者。吾社湯龜。ナリナレ、ナリナレ、ナリナレ、ナリナレ

不相念。公者雖座。肩憲丹。吾者衣憲。君之光儀。アヒキモ、イヤセド、カマ、イヤセド、カマ

味澤相。解目者非不飽。携木問事毛。苦勞有來。アケドモ、アケドモ、アケドモ、アケドモ

璞之年緒永。何時左右。我憲將居。壽不知而。アラモ、ナカク、イツマデカ、イツマデカ

今者吾者。指南與我兄。憲為者。一夜一日毛。安毛無。イマノ、ア、シナムヨ、ワカセ、スレ、イナシラズ、ア、イナシラズ

白細布之袖折反。憲者香。妹之容儀。乃夢二四三湯流。シロ、ホ、カ、カ、カ、カ、カ、カ

人言乎。繁三毛人髮三。ヒト、コト、ヒ、ヒ、ヒ、ヒ、ヒ、ヒ

我兄子乎。目者雖見。相因毛無。ワ、ケイ、コ、メ、メ、メ、メ、メ、メ

○注御香宮の毛人
大臣の言の天
臣の言の天

人言乎。繁三毛人髮三。ヒト、コト、ヒ、ヒ、ヒ、ヒ、ヒ、ヒ

我兄子乎。目者雖見。相因毛無。ワ、ケイ、コ、メ、メ、メ、メ、メ、メ

とて教てそのまゝ舉ぐ。又二句の均さハ自ら多かれ何ぞ同きとせり又同き
と一旬二句のまゝのまゝを教て舉ぐ一併け上下のまゝ今本そのまゝにせり人
集念餘者丹穂鳥足沾來人見鴨
てす別ちの同きものを扱はざれば

明日者其門將去出而見與憲有容儀數知兼ア スナラバ

得田價妻ウ タガヘル今本妻とコロイフカシコトガリけいと漏ら言後也ヨクセヨワガセ
心鬱悒事許異ノ儀耳のまゝあり

有時谷ル吾他心そ移り何も信く思ひんやりぐ一まのまゝにせり

吾妹子之夜戸出乃光儀見之從情空成地者雖踐スガタ テシ

海石榴市之ツ バイイチけ所の名同やまのの中へあつて人私計皇子命の石榴市の哥
桓まかり初淑寺よとてと下

立平之結紐乎解タチナラシ今本平之結紐乎解

卷惜毛ケ今本思毛今本男の毛今本結て紐をこの男

吾齡之衰去者白細布之袖乃狎尔思君乎羅其念ラグ オモフ今本君

憲君吾哭涕白妙袖兼所漬為便母奈之シテサヘヒガテ泪ハ面をぬす

從今者不相跡為也白妙之我衣袖之干時毛奈吉イヨリ今本君

夢可登イメ今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

言情恠コノコト今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

言情恠イメ今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

言情恠イメ今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

言情恠イメ今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

言情恠イメ今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

言情恠イメ今本班とツキサハ月數多二千西君之事之通者

はそは是許るの時ハ
濁り動いこと事許
ころの所は法て西たれ
ども越いふこと耳を
かんとこと俗言
かろてまを候の
とまをてまを候
のいふこと思

成るるまゝ市がけはけ言のまゝ今本紐ゆすて立
序のまゝ結て立平之結紐乎解
立平之結紐乎解

とてハ羅の一字を二字に傳ひ羅と助辭と例あすは袖のまゝ
半解く袖のまゝ今本その男とあれははかのついでまゝ
りもつてまゝ今本そのまゝ今本そのまゝ今本そのまゝ
ハ袖衣のまゝなれはまゝ今本そのまゝ今本そのまゝ

今本君今本男の毛今本結て紐をこの男

今本君今本君

今本君今本君

今本君今本君

今本君今本君

今本君今本君

或本哥云人自多
直不相

未玉之年月兼而烏玉乃夢爾所見君之容儀者。

從今者雖戀妹爾將相哉母床邊不離夢所見乞

人見而言害目不為夢谷不止見乞我意將

息

現者言絕有夢谷嗣而所見乞

直相左右二

虛蟬之宇都思情毛吾者無妹乎不相見而年

之經去者

虛蟬之上常辞登雖念繼而之聞者心慰焉

傷かぬ例のまぎぬを思ひ違ひて後よそをさかり
まわ○まぎぬは和むぬを思ひ違ひて後よそをさかり

白細之袖不卷而宿今本不敷もろもろと削りて馬まじ枕

烏玉之今夜者早毛明者將開

白細之手本寛久人之宿味宿者不寢哉意將渡

け所寄物陣思て標をハとゞきしよ上まじつた

如是耳在家流君乎衣尔有者下毛將著跡吾念有家留

かきききんやんやん肌をさす
わんわんわんわん悔をさす

椽之衣服令之依椽椽深うが八家人奴輝の衣の色は枯れは八家人の我多

衣裏尔為者拾八重あれ裏といふ人料よりの吾將強八方君之不

義解椽椽木実
之和名抄椽椽流椽
椽也こ八田舎人のん
ぐわとまてさす乃
る椽椽子ののふ

の事よきやが合意
しつゝと考てしけ
をすす又よき衣
もまつもよき赤
白の襟さついで本
の趣乃二をせざる
より好むる色色
と古ハ侍衣のち
よれ万葉のち
うかす

来座。右のぬく裏といせば天とせしと思ふ所也。
来座とていふは、来まきまぬよとせしむるなり。

紅薄染衣。今なきがらと削りいぼす。桃花褐淺等衣淺赤と。
よめりて同くしてありてあつてあつて削り退紅と古も同く。
淺赤

相見之人亦。意比日可聞。はらひのりもよく
おもしろかた。

年之經者。縁を經。見管偲登。妹之言思。衣乃縫目。見者哀
裳。

椽之。一重衣。裏毛無。こゝ裏も無といふこと一重といへり。
將有兒故。のりもよくいへり何んもよくいへり。

意度可聞。今なきがらと削りいぼす。桃花褐淺等衣淺赤と。
よめりて同くしてありてあつてあつて削り退紅と古も同く。
淺赤

解衣之。辭。念乱而雖意。何之故其跡。問人毛無。あつて人のいへり
と問へり。

桃花褐淺等乃衣。布を桃花色より薄紅に染し、荒涼と云、褐は布衣。
延喜式に凡紵布之衣者雖退紅自非輕細不在制限。

尔念而妹尔。將相物香裳。いへり収びよすよめり。
わかれ香裳をかひのさ。

大王之。塩焼海部乃。塩焼とて始めて公の御物なり。藤衣。穢者
均れおのさ。恩賜より米塩を賜へり。

雖為彌希將見毛。イヤメツラシモ。
アカキヌノ。ヒトウラコモ。

赤帛之純裏衣。紅といふ。赤帛といふは、緋色の衣。さへ表裏同く赤色なり。
ひらひら衣のりもよくいへり今なきがらと削りいぼす。

比者鴨。寝たりと思ふ。いへり今なきがらと削りいぼす。
あれが寝たり。あやと思ふ。いへり今なきがらと削りいぼす。

真玉就。就ハ借字にて。またまと著。越乞魚而結鶴。遠近をわけあつて。
緒しつゝもよき。冠辭也。

或人武烈天皇記。以
益為詛。角鹿ちり
まのこりし。いへり
供御守し。いへり
よき依て。いへり
大君の位。いへり
純れ。いへり
の。いへり
ま。いへり
の内。いへり
い。いへり
九。いへり
ハ。いへり

短。いへり
結。いへり
結。いへり

短。いへり
結。いへり
結。いへり

短。いへり
結。いへり
結。いへり

短。いへり
結。いへり
結。いへり

言下紐之
言と通
所解日有米也

言下紐之
言と通
所解日有米也

紫帶之結毛

紫帶之結毛
解毛不見

本名也妹尔。憲度南。

高麗錦
解不放齋而待杼驗無可聞
紐之結毛

紫我下紐乃色尔不出
憲可毛將度相

因乎無見

何故可不思將有紐緒之心尔入而憲布物乎

真十鏡見座吾背子吾形見將持辰尔
將不相哉

真十鏡直目尔君乎見者許增
命對吾憲止

目

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

命對吾憲止

犬馬鏡冠 見不飽妹爾。不相而月之經去者。生友名師。

祝部等之齋三諸乃。犬馬鏡上。懸所カケテニスバユ。今本懸而今本懸而。序ハフリラガ。懸所ハフリラガ。今本懸而今本懸而。序ハフリラガ。懸所ハフリラガ。

相人每アヲヒトトニ。仍て而仍て而。相人每アヲヒトトニ。仍て而仍て而。相人每アヲヒトトニ。

針者有杼。妹之無者。將著哉跡。吾乎令煩絕紐之緒ヲ。旅旅。

高麗劍冠 己之景迹故。外耳。見乍哉君乎。意渡奈牟新ハガ。

針者有杼。妹之無者。將著哉跡。吾乎令煩絕紐之緒ヲ。旅旅。

高麗劍冠 己之景迹故。外耳。見乍哉君乎。意渡奈牟新ハガ。

かゝ又よその剣を
侍てま創とそく
てるはうううへんハ
かゝ又よその剣を
侍てま創とそく
てるはうううへんハ
かゝ又よその剣を
侍てま創とそく
てるはうううへんハ

をそをか
おし

劔太刀冠 名之惜毛。吾者無。比来之間。意之繁尔。

梓弓冠 末乃多頭吉波。雖不知。今本末者師不知。雖然と云ハハハ
多頭吉波雖不知心
者君尔因之物也
多頭吉波雖不知心
者君尔因之物也

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何
梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

右ハ弓右ハ弓。引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

梓弓冠 引見縦見。思見而既心齒。因爾思物乎左。今又ハ何

よねしむるも
ふりあふのんや
すの耐よめね
いと実なる初
のいさつしめ
あつてはつて
又起てふも
よき起り入
るなり一伏三起と
のまわ

言の足あつて一伏三起と申すは古く射す時のさぶら下は梓弓と申すは
擬弓のたつたつと申すはあつては伏すの古く申すは今昔物語に申すは
弓の射んとする時足用申すと申すはあつてはさぶら下は梓弓と申すは
且伏すも起すもさぶら下はあつてはさぶら下は梓弓と申すは
さぶら下は梓弓と申すはあつてはさぶら下は梓弓と申すは
君者會奴

今更何塵將念末二男はとき括とて梓弓引見縦見縁西鬼

乎。

嫉孀等之績麻之多田利打麻懸多利ハ合義解ニ線柱集解ニ
も多利と申すはさぶら下は梓弓と申すは

績時無二意度鴨上卷ニ
開沼之

昔手笠爾縫將著日乎待尔
年曾經去来ちつてあ

垂乳根之母我養蚕乃眉隱まゆは隠りしを馬聲蜂音上卷ニ
鳴と毛

石花和名抄有蹄子勢良似犬蹄而附石生者也兼名
苑注云石花二三月皆紫舒花附石而生故以名之

蜘蛛荒鹿異母二不相而。

玉手次不懸者辛苦懸垂者垂ハ借字ハ思懸るよあつて既
相一と懸ると言ふ懸垂は懸るなり續手

見卷之欲寸君可毛。

紫綠色之纒冠辞考よむかづののひいひつも玉の
緒をほけよは保るる花やのちる花ハ香尔花ハ美を
一きかり

今日見人爾後將意鴨。

玉纒不懸時無意友何如妹甬相時毛名寸。

相因之出来左右者疊薦上卷
よ出重編數夢西將見三ナム

古今草集の序
のやうに
けやうを延てり
和らう推言
ハあつては
音とつて

武烈天皇紀の經
 石上振高橋
 大和國山辺郡振神社の前の川に岸は多れ、是は後世に言はれ
 たり。天平の記に久遠の都に橋はす。すはるもけま
 ちてこも枕をけ
 してにのちもあつとい
 はん。

或本奇曰湊余蘆
 別小船障多君尔不
 相而半曾經來と
 びさの一本はあ
 ト上の本れあ言
 こと誤りなり。
 田禰の稻苗は交れ
 るとつめて擇出

白香付シラガツク。木綿者ユフハ花疑ハナカモ。今本今本。事社者コトコソハ。何時之真坂イツクノ。

毛モ。本坂本坂と枝枝。常不所忘常不所忘。妹之将待妹之将待。夜曾深去夜曾深去。

石上振高橋石上振高橋。高々尔高々尔。妹之将待妹之将待。夜曾深去夜曾深去。

家留家留。湊入之湊入之。葦別小船障多葦別小船障多。今来吾乎今来吾乎。不通迹念莫不通迹念莫。

水乎多水乎多。上尔種蒔上尔種蒔。比要乎多比要乎多。

擇擢之擇擢之。我等曾我等曾。夜獨夜獨。

靈合者靈合者。相宿物乎相宿物乎。

小山田乃小山田乃。鹿猪田禁如鹿猪田禁如。母之守母之守為裳為裳。

春日野尔春日野尔。照有暮日之照有暮日之。外耳君乎外耳君乎。相見而相見而。今曾今曾。

悔寸悔寸。

足日本乃足日本乃。從山出流從山出流。月待登月待登。人尔波言而人尔波言而。君待吾乎君待吾乎。

吾乎吾乎。平人助平人助。辨辨。

一云母之守一云母之守。之師之師。

吾乎吾乎。平人助平人助。辨辨。

上上。一云母之守一云母之守。之師之師。

一云母之守一云母之守。之師之師。

一云母之守一云母之守。之師之師。

一云母之守一云母之守。之師之師。

一云母之守一云母之守。之師之師。

一云母之守一云母之守。之師之師。

一云母之守一云母之守。之師之師。

○上張ハ昔ぬ前ニ
少れんかちんえふわ
と云ふことありき
しきりての始りて出
ればいよ
○このめくハさほく
こゝろもさかしく改め
て記すことなり

誤れりてハ先ハ三ニ依りて改めつ女の御一
るのハ先ハ三ニ依りて改めつ女の御一

夕月夜五更闇之ツクヨアカトキ 不明オホミダ 今本おのふもく初ハ毛の祥むつ
必闇りねがま

見之人故定りもてぬぬち 意渡鴨イワドカモ

久堅之天水虚尔ツミソラニ 水々水々 照日之将失日社ウセナム 吾意止目

十五日出之月乃高々尔テチノヒニニシ 高ハ速とて一言者も例上の別記はいつがぬ
るもさかしくつげり何ぞいよげふ

春日野尔照有暮日之外耳春ノノ 西の由は後々日ハさく外なるまらふひえて
思ふよげを月もそのの涯さやうよええて出まらふまらふ

君乎座而何物乎加将思君ハ 君ハ座ナニヲカモハム 君ハ座ナニヲカモハム
といよまらるわ

月夜好門尔出立足占為而アウラシ 往時禁ハ妹二不相有アハサラム

野干玉夜渡月之清者吉見而申尾君之光儀乎ノノ 月夜ハ門は出たら夕日といふあつた
とせハゆつちくとわらふといふハ先歩の叙と

足引之山乎木高三山の梢 暮月乎いつつ 夕月を待めく君と待りつ
と言と界とあやしい

何時君乎待之苦沙イツカト 何カクルシサ

椽之衣解洗又打山アツヒニツチヤ 上ハ衣を脱ぎ洗つて又搦ハ本よりこ
てとらん人ハまらるるをいふ老ハ十八ハ紅はうつらハ物ぞつづ

古人尔者猶不如家利モトツヒトニ 後ハ人ハまらるるをいふ老ハ十八ハ紅はうつらハ物ぞつづ
まらるるやもてまらるる

佐保河之河浪不立静雲君二副而明日兼欲得サモガ 兼ハ二つをいふ
さかぬ

吾妹兒尔衣借香之宜寸河ミシキカ 春日ハ衣借といひけつ次の振川ハあつた川
といひけつ後古への釋とて是までハ序の

あすさ人もかれりアスサ 中ハさかしくいふ

あすさ人もかれりアスサ 中ハさかしくいふ

あすさ人もかれりアスサ 中ハさかしくいふ

因毛有額ヨシモアラヌカノ 妹が目を人よすがもいりてうもがたつたわらぬが 妹之目

乎将見。

登能雲入トノグモリノ 棚曇と言使のよ 雨零河之左射礼浪アツルカハノ 石上の振川よりあふ

振川の浪むかひつゝも万ふさぎのれ序とくもどくもげ下よ左伏浪之波越安ナニコトア

暫仁落小兩間交置而吾不念國て思へるも川波よりあふりてよこすつたる 波の文れつゝとわらひ 間無毛君者所念鴨。

吾妹兒哉安乎忘為莫ワギモコヤ 石上袖振河之石上 袖振河之右に雨零河やいし

袖振山といへぬくも女よいつけつゝ 將絶跡念哉タエムトモハヤ 既出

神山カミヤマ 山下響逝水之水尾不絶者後吾妻カミヤマノ 山下響逝水之水尾不絶者後吾妻

如神カミノゴト 所聞龍之白浪之面知君之カミノゴト 所聞龍之白浪之面知君之

山河之瀧尔益流カミノガハ 意為登曾カミノガハ 意為登曾

甬来無間念者ナリ 甬来無間念者

足檜木之山河水之音不出タシノキ 足檜木之山河水之音不出

高瀬尔有コセナル 高瀬尔有

能登瀬乃河之後将合ノチモアハム 能登瀬乃河之後将合

能登瀬乃河之後将合ノチモアハム 能登瀬乃河之後将合

能登瀬乃河之後将合ノチモアハム 能登瀬乃河之後将合

能登瀬乃河之後将合ノチモアハム 能登瀬乃河之後将合

能登瀬乃河之後将合ノチモアハム 能登瀬乃河之後将合

妬、廣、讀、諸、書、音、
撰、説、文、偶、也、彖、傳、
遇、也、柔、遇、剛、也、曰、
妬、也、也、也、也、也、也、
た、う、せ、て、よ、ま、り、ま、る、
は、依、り、ま、る、よ、ま、り、
セ、り、刑、に、あ、り、ま、る、

後世人袖振山てよ
山てよ 男ハハ
ハハ

カミノゴトノ
カミノゴトノ
カミノゴトノ

と能知と音を轉 トイハレハ例あり。 妹者吾者。今爾不有十方。

洗衣。衣一本を用。取替河之。 取替といは替へり。今ハ不ニ誤。

兼都母。 河余杼能不通牟心。思

班鳩之因可乃池之。 宜毛。君乎不言者。念

衣吾為流。 下從者將

隱沼之。 下從者將

憲。 下從者將

者迷惑也。 市白久。人之可知。歎

為米也母。 市白久。人之可知。歎

去方無三。 吾曾物念。頃者之

間。 頃者之

隱沼乃。 白浪之。灼然出。

人之可知。 人之可知。

妹目乎。 見卷欲江之。

有跡告乞。 有跡告乞。

石走。 早敷八師。君爾憲良久。

吾情柄。 吾情柄。

大和物語よつちも
胸の清湯に内と
つちゆりつて

△一本ま市より母
よむつてけしす

考よつちもつちも
樹を集めて依て也
加つて本集が枝
に約のまへま市白
久の著のまへおも
てよむつては人か
んてん

君者不来吾者故無

ユエナニ。女のゆゑなきハ。ゆゑナニの無ク。

立浪之數和備思

重波を日。本紀も集。

君も志さざるも志くするもいひ。又集中皆波ふきくといわがて志くして一言ハ他のゆゑハいふ波いひぬをいふもねとまきりて穀とせりといふゆゑ今カクテコジトヤ。ちいしくいふ。 如此而不来跡也。

淡海之海邊多波人知

奥浪。奥の波。君乎置者。知人毛無。

相聞。

卷三長奇と妹縁而者。不可言之因妹。友請縁君及奇云云之。随意といわげ妹の。誤わくくはる。

君といふ妹も男といふ集の例もは依はんの奥ふく隠しは男のうハ知人なりといふゆゑも集中君妹妻の三字をおぼゆるもわかぬといふゆゑも夫ハ妻を語れりて人万有集。別長谷のう観り下よ吾隠せし書赤ねて月夜ふ人て人もますとのいふげは隠せる其書天地は通わてても隠れりやもそのまともをいひて可くさ本をさるや。

大海之底乎深目而結篆之

上テシ。妹心者。疑毛無。

イカデ。

貞能納尔

依流白浪。無間。思乎如何。妹爾難相。

念出而為便無時者。天雲之。與香裳不知。

奥許不知。念乍曾

居

天雲乃。絶多比安。心有者。吾乎莫憑。

約りてあやかり。

待者苦

毛。

君之當見乍母将居伊駒山

山旅をて有ハ。大和山を河内。

雲莫蒙

ナカテヒ。蒙山やと

雨者雖零

い切なるんわか。おしものいもさる地。

中々二。如何知兼吾山尔

集中は吾岡もいひ。くわの住所の上なり。

燒流火氣能外

見申尾

春の群山と煙をて外といふ人料するの。まき煙ハハアア。おある若といへり。○卷七。靈寸春。吾山之於。立霞雖立雖居。君之随意。て。も。志きくは生涯をいへるうれ。我命のハまもわか。も君があて。てを思を。

けたまきくは冠輝。あはすあのか。枕を冠考ふ。

吾妹の烟と申すは
ひり八解泥と申すは
とてははむべし。

たまさか吾といひしれよわ吾山の上れき
つけるまといふ人料とせしはこと同しとて

吾妹兒尔。憲為便名雁。ナカリ。加里の約ハ伎。胸乎熱。旦戸開者。所見霧可

聞。浮世ハ夜火の氣と云烟とのこと。
古ハハ事ある時烟を通りいひつ。

曉之朝霧隱。ガクリ。曉とあまハ本同じくうらぐかき反詞二。今本反羽と如何。イカデカ

憲乃。色丹出尔家留。

思出時者為便無。佐保山尔。立雨露乃。應消所念。

殺日山。キリヒヤテ。紀伊國の熊野よきわめの王子てハ社を。或説ハ紀伊國といひ。往反道

之。朝霞。髮鬢谷ハ。妹尔不相车。

如此將憲物等知者。夕置而。旦者消流。露有申尾。ケヌル。ナラニシヲ

暮置而。旦者消流。ヨフス。ヒルハ。キエヌル。暮ハゆづれといふれはけあや夜白露之。可消憲

毛。吾者為鴨。

後遂尔。妹將相跡。旦露之。命者生有。憲者雖繁。シゲド

朝旦。アサナサ。あさなむさかしく下のあとを草上白置露乃。消者共跡。云師君

者毛。かゝ髪ハ一と続ハ久ク一とて

朝日指。春日能小野雨。置露乃。可消吾身。惜雲無。

露霜乃。消安我身。雖老。又若反。君子思將待。上の冬。最初の

未全く同あり。同あり類の美ち。所載ハ保もあれど上も同あり。あまも
てい。中ちハ。類。今考。よけ。二句の言。三句。わつ。と。言。れ。及。二
句の。ま。ち。上。の。冬。よ。璞。之。年。緒。永。何。左。右。鹿。我。恋。將。居。壽。不。知。而。一。め。く。朝。霧。の。消
安。わ。づ。い。つ。ち。ぐ。う。を。つ。と。人。命。あ。ず。す。て。ぐ。い。い。下。さ。バ。集。中。の。例。も。あ。れ。ま。も。通。わ

けち後ハ中おと深
且次のあくとあは
中得。わ。う。ん
あま。い。う。よ。う
一。と。む。け。所。れ。い
う。う。う。次。の。あ。ま
ても。あ。ま。は。

ちん又い三の句よわ下のあふくハ上とかくあつ。年経る吾身老ぬもあふくぞりよふこ
れまば今の上下末ともふあふの消安吾えてふ末ハ他方此文ア一物とり一物がけ
回方の再載しも必それれものたうれわてなむ
既上の三首もあ後て載れればまれわわ。

待君常庭耳居者打靡吾黑髮尔霜曾置尔家類。上の末お待
不得而内者

不入白细布之吾袖尔露者置奴靴て六。
心均一れを言てるれば二所も我さむ。

注。或本奇尾句云
白細之吾衣手尔露
曾置尔家流と云へ
るのちと上末のあ
の言彼此入連のミ

朝霜乃可消耳也時無二。オモヒワタラム。月日をかてのこ確
まことひ 思将度。わん人のを嘆く

氣之緒雨為而。イキ

左佐浪之波越安暫仁。ナニコスアゼニ。あせふ田ののると
せくを今もいつわ。 落小雨。こほのちわく水の上よ

神左備而。古びく久き
といく人料。 巖尔生松根之。古く松根のやぐろく種れ
むらうつとむり 間文置而吾不念國。

浪とあせもい
ど暫は漏る者か
が上波越といを必
あせく。

君心者忘不得毛。カキツ

御獵為雁羽之。同捕場と
まのまれ。 小野之檉柴之。ナラシバノ。小あしぐ
とく今も。 奈礼波不

益憲社益。ラデ

櫻麻之。サクラマノ。上末ヨ
いへわ。 麻原乃下草早生者。マハラノ。前へつたわもあやちりまの
あくまをやととつてま生るハ

下の二句ハ上の末よ
いつわさく下草の生
るハ何の畑つれも
あれ麻二つと奉
りハまれらるんむ。

妹之下紐不解有申尾。妹が
持つおさげのつとわおひなとつてつたわらる。

春日野尔浅茅標結。ユヒ。浅茅ハ秋の末に紅紫に深
く。春。妹が似ふまるとるよわわらつたる。野山の浅茅

人ふかりそね又山さる夕日隠れぬ浅茅系ほらんぬままり。タヒ
ゆさまるとさるのゆくとわまらゆいと成らん末の付きまらるはまら。 斷米也登吾

念人者彌遠長雨。オモひをこ
きをいつわ。

△或本哥云吾念人
半將見因毛我母

足檜之山管根乃勲吾波曾憲流君之光儀乎。

垣津旗開澤生サキニシユ菅根之絶跡也君之ガ 集申ニ山管ハ中根とい

加つたに引いては
さゆいりあひまら
既引く用耐の云

延も較りしとよそふは又絶つてくさる卷四 足引の岩根... 水菅の根ハ用さけ
か... 志めのもよゆてめく引といハ後もい... ま... 水菅の根ハ用さけ
ま... 水菅の根ハ用さけ
ま... 水菅の根ハ用さけ
ま... 水菅の根ハ用さけ
ま... 水菅の根ハ用さけ
ま... 水菅の根ハ用さけ

足檜木之山管根之勲不止念者於妹將相可聞。

相不念有物乎鴨管根乃勲懇吾念有良武。

山管之不止而公平念可母吾心神之タニミヒノ 頃者名寸。

妹門去過不得而草結風吹解勿又將顧カハリミシ 一云直相顧且カ

淺茅原茅生丹足踏意具美グミ 浅茅ハ茅の強多ハ踏受の痛むカミ

畧さりの下ニまうカ別記ハ... 吾念兒等之一云 家當見

津。

内日刺冠 宮庭有跡鴨頭草乃移情吾思名國官中ニてハ

百尔千尔人者雖言月草之移情吾將持八方。

萱草吾紐尔著ツギム 時常無念度者生跡文奈

思。

思。

或説五雜俎有
睡草亦有却睡草
有醉草亦有醒醉
草云々

鬼と志許草
の言志許草は志許
の言志許草は志許
の言志許草は志許

五更之目不醉草跡

此乎谷見乍座而吾止偃為。
乃植を一寸さうわは切てけりてあのみぶがけは上下へさへ向うとわねよ
石葛を目けりてさすといつらきて目をめしむる葉ぞとく親もゆてと
りわさるは是とわがはしるまを
るやとさうさうさうさうさう

萱草垣毛繁森

雖殖有鬼之志許草

猶憲尔家利。
浅茅原小野尔標結空言毛将相令聞
○け本の句上まもきねれね
○け本の句上まもきねれね

皆人之笠尔縫云。
有間管在而後爾毛相等
曾念。

三吉野之蜻乃小野爾刈草之念亂而宿夜四曾多。
妹所服。
山管之不止八将憲命不死者。

谷迫峯邊延有玉葛。
來友。
水莖之崗乃田葛葉緒吹變面知兒等之。
不見比鴨。

三吉野大君のことは
御笠の意妹のあは
りま真ん中へ
妹の神もよひか
めし。
三云石葛令蔓之
有者。

赤駒之射去羽許イユキハカリ 圍田不盡山のあま白雲圍田不盡山のあま白雲 真田葛原何傳言ハラのナノツテゴト 天智天皇紀

十年十二月崩まゝ後童謡四首の末はあのかゝ四の夕タニニシテ 直將吉この赤駒にて

奈尔能都底峯騰とる侍をハ後その字をもよほす 直將吉ついでくは何の

あれ末よりしてさういふおまを吉とつて 直將吉ついでくは何の

木綿疊タナガニ 田上山之狭名葛 在去之毛不令有十方モアラシメズトモ

丹波道之大江乃山之真玉葛絶牟乃心サナカツラタエムノココロ

大崎之有磯乃渡石上乙万呂主左 大崎の神小濱雖小百船人も過とて

延久受乃往方無哉延久のひろさ 我不思議延久のひろさ

木綿疊ユフダミ 田上山之佐奈葛今ハ田上を白月小湊

後毛必將相等曾念後毛の必 唐棣花色之ハチズイロノ 移安情有者年乎曾寸經フル 事者不絶

如此為而曾人之死云藤浪乃直一目耳見之人故爾カクシテゾツ

の一目よりり次 朝影尔吾身者成奴玉蜻朝影尔吾身者成奴玉蜻

本本 移安情有者年乎曾寸經フル 事者不絶

而。

如此為而曾人之死云藤浪乃直一目耳見之人故爾カクシテゾツ

の一目よりり次 朝影尔吾身者成奴玉蜻朝影尔吾身者成奴玉蜻

本本 移安情有者年乎曾寸經フル 事者不絶

而。

住吉之敷津之浦乃名告藻之名者告而之乎不相毛恠

スミノエノシキ ナノリツノ

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

三佐呉集荒磯尔生流勿謂藻乃名者令告父母者知

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

浪之共靡玉藻乃片念爾吾念人之言乃繁家口

海若之奥津玉藻之靡将寝早來座君待者苦毛

海若之奥津玉藻之靡将寝早來座君待者苦毛

名者曾不告恠者雖死

目八方

君尔不相久成宿玉緒之長命之惜雲無

恠事益今者玉緒之絶而乱而可死所念

海處女潜取云忘貝代二毛不忘

者

名告くりよ女の名
も男を告ぐ又男
の名を告ぐ二
つともあはれ
名告くりよ女の名
も男を告ぐ又男
の名を告ぐ二
つともあはれ

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

トモ 今本吉名者不告と云ハ言ハぬハの古澤ハ之を

くじつらんといひ
とてさうさうとわ

氏鳴成鶏左倍

こころはひびきこえてわつとていひはるやの
まよひをいひこゝろがわたりてまよひ

朝鳥早勿鳴吾背子之旦開之容儀見者悲毛

悲は愛より
怒りも涙の時

つよきかればごみ容儀の
かゝれりごみのかげ

拒柵越尔

是今なませり... 柵を越へて馬塞の畧して孝徳天皇紀よかま
ごつけらるるはごみありふふ本と馬ちごみせりごころ

馬をよわめおめりてせりてたよ小本を用れ拒柵の字を去又
冊之尔武藝波武古馬乃とて三つよわ下八尺さるるまよご久敷はあふり
をいつて様御のよとげ馬柵も同ド様を用ひ右のこころはまけり都がは
のりちるごみあまごころのせりあまけりは同ごみは依りごころも久敷ごと

麥咋駒乃雖詈

回家よりハ馬をらりてごころの麦ををりてをるはませり
又波ごのこころ咋を罵りてをりぬごころよわハ母詈

猶慮久思不勝鳥

鳥ハ乎とぞへ
く助辞く

左檜隈

左の森をを直り同ごころをまより酒のこころごころ
物ごころいごころまありはごころ人ごころごころまより

檜隈河

檜隈河の

駐馬馬尔水令飲

け馬を今なよまごころ或人ごころ
子馬のめりかまよといごころ

於能礼故

女方の父母ハ
馬之
和名抄ハ漢語抄ハ云馳青馬黃馳馬葦花毛馬也新撰
字鏡ハ馳馳同馬白色又青色阿乎支馬さるるのあとと

面高久

面高久
乗而應来哉

紫草乎草跡別々

鹿ハのまよはごころと撰
伏鹿之野者異為而

伏鹿之野者異為而

紫草乎草跡別々

伏鹿之野者異為而

紫草乎草跡別々

鹿ハのまよはごころと撰

伏鹿之野者異為而

伏鹿之野者異為而

古今多事のたあ
御事ふさうれ

ひのま川はこほし
うてさごりあふ
秋をいひん人
ごころ初句と末
句ハ清うれごほ
ふゆハ古例乃お
ねご集よハ時
言ゆすたあご
か
つれはごころ
か

○はごころ
ごころごころ

居。

人目多直不相而蓋雲吾憲死者誰名將有裳タガナナラムモ。け言上ホモあり。

相見欲為者アヒミテホシケクスレバ。あの言へけ從君毛吾曾益而伊布可思美為也キエヨリモ。イブリカシニスヤ。

空蟬之アヒミテホシケクスレバ。あの言へけ人目乎繁不相而年之經者生跡キエヨリモ。イブリカシニスヤ。

毛奈思。

空蟬之。人目繁者。夜于玉之ヨルノイミナヲ。け疑の乎ハ次而所見ツギテニエ

欲コト。本居宣長が今所見欲をこまなりと訓ハ理りち。見えこそ。例ハ。葉中に

見欲コト。本居宣長が今所見欲をこまなりと訓ハ理りち。見えこそ。例ハ。葉中に

慇懃憶吾妹乎。人言之繁爾因而不通比日可聞け上の伏三起。不通有之を今

人言之繁思有者。君毛吾毛將絶常云而相之物鴨古ハ乃

為便毛無片憲乎為登比日爾吾可死者夢所見哉イメニニエキヤ。

夢見而衣乎取服装束問尔トリモ。ヨソフ妹之使曾先爾イメニニエキヤ。

來ケル

在有而アリアリテ。かく在後毛將相登言耳乎堅要管カタクイヒツ。たも。不相登要之と云

來ケル

在有而アリアリテ。かく在後毛將相登言耳乎堅要管カタクイヒツ。たも。不相登要之と云

來ケル

言ハ地よ地カテ目
又地ぬをなす同の
遺方ちさやもよと
後よ又地よ地カテ
いし地この意よりて
撫なまきり。

あはをれれとい
まややうへは
も吾は地い
しうもこも人ハ
人の心はまきり
やハ。

相者無雨。

極而吾毛相登。思友人之言。社繁君尔有。

氣緒尔言氣築之。妹尚乎。

人妻有跡。聞者悲毛。

我故尔痛勿和備。曾後遂不相登。要之言毛不有雨。

他事...

門立而。戸者雖闔。盜人之窄穴從入而所

何處從鹿妹之入來而夢所見鶴。

見氣年。今本年の上ノ氣

從明日者。意乍将在。今夕彈速初夜從。緩解我妹。

今更將寢哉。我背子。荒田麻之。全夜毛不落。

夢所見欲。出乍曾見之。雨零

吾勢子之。使乎待跡。笠不著。

雨。今日谷將相乎。

無心。雨尔毛有鹿。人目守乏妹。爾今日谷將相乎。

ハ乎と

得る。

字鏡ニ闔合也雨也

○今更しりし初と

Handwritten annotations and commentary in smaller characters surrounding the main text.

直獨宿杼宿不得而白細袖乎笠雨著沾乍曾來

雨毛零夜毛更深利フリヨモフケユケリ今更君將行哉今更君ハユカメヤ

紐解設名トキニケナマけハ辛加用あり

久堅乃雨零日乎いさうをあるひけハ古ハぬりて我門雨さいどハ松系よもうの初まぞれあたる

蓑笠不蒙而來有人哉誰キタルヒトヤタレ

纏向之痛足乃山雨雲居乍雨者雖零所沾乍曾來アク

るい言の中ニ乎の助辞をおくり集申ハキハハの字を多し得ん

△此所ノ羈旅發思テ標立もろくす

△こゝろ人ハ只方集のち四首も除て列下奉

月易而君乎婆見登念鴨オモイめかりて日毛不易為而慮之オモイめかりて

重オモイ男のまき松まき列下附来人月下留来

莫去跡變毛来哉常ナキトカヘリモクヤト顧尔カミニ雖往不歸ユナドカヘラズ

道之長手矣ナガテヲ願カミ一ヒトゆけど文おまかりて

去家而妹乎念出灼然人之應知歎將為鴨オモヒデ

里離遠有莫國草枕旅登之思者尚慮来サトサカリトホカラナクニ

去家而妹乎念出灼然人之應知歎將為鴨オモヒデ

里離遠有莫國草枕旅登之思者尚慮来サトサカリトホカラナクニ

るまきか
わくよ

近有者名耳毛聞而名種目津今夜從憲乃益益南チカラバノミ

妹をいよきと孫あゝハ孫やとていふ

客在而憲者辛苦何時毛京行而君之目乎將見客の國乃任在

トホカレバ

遠有者光儀者不所見如常妹之咲者面影為而ガエヒハニシテ

年毛不歷反來嘗跡ヘズカヘリキナメド朝影尔將待妹之面影アチカゲニニツラムガ

所見セ上の毛に影影ふ吾身はぬぢぢりいささうのめく言を畧さ

玉梓之今梓道爾出立別來之日從于念忘時無ヨリオモフニル

波之寸八師ウシ奉志賀在憲尔毛有之鴨カモ如是カ

君所遺而憲敷念者ニオクレ草枕客之悲有苗尔タビノ妹乎相見妹乎相見

而後將憲可聞テノチコヒムカモ國遠直不相ニハアハズ夢谷吾爾所見社相日左右二ニシ

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

如是將憲物跡知者吾妹兒爾言問麻思乎今之悔毛カクコヒム

妹ちねばのいそしちりて別まこころをいそしちねば
抱ゆるいて来べしわらわらきりてまもるべし。○言同おわりなり。

客夜之タビノヨノ。きよのよりの言もろくおつ
久成者左丹頰合サニツラフ。赤と下
紐開ヒモキ

不離サケズ。初ハ吏の核のよとつひま
初ハ妹が身たつとつひ。

吾妹兒之阿乎ミヌア。思良志草枕旅之九寝爾下紐解トケ

草枕旅之衣紐解トケヌ。所念鴨オモホユカモ。家の妹ウチノイメ
此年比者コノトシノヒト

草枕客之紐解トケ。家之妹志吾乎ウチノイメノシミニ
待不得而嘆カキマデ

良霜。

玉釧タマクシ。卷寝志妹乎月毛不經マキネシイメニツキモナク
置而八将越ヤコエム

此山岫コノヤマノケラ。岫ハ山穴なり。武蔵野乃乎具奇我吉藝志ムサシノノハニキガキギシ
此山岫コノヤマノケラ。岫ハ山穴なり。武蔵野乃乎具奇我吉藝志ムサシノノハニキガキギシ

和名抄云陸詞曰岫
山穴似袖云云
古ノ家録云在
字モハヤク英

梓弓末者不知シラヤシド。杼愛美君尔副而ウツクシノミ
山道越来ヤマミチコエ

奴。

霞立長春日乎カサタチチヨウサニチニ
奥香無オクカナシ。不知

山道乎ヤマミチニ。憲乍可将来ノリハツキコキマ
夫の任の圖へほの事は慕いしなり

外耳君乎相見而木綿牒ウツミ。手向乃山乎テムカフニヤマニ
某中よあるのよ向と

明日香越将アシカコエナム
任ふよ候いし田舎へ

玉勝間タカタマノマ。安倍島山之アノベノシマノヤマノ
暮露尔クシロニ。旅宿得為也ツラヤドモトクニイハレ

玉勝間タカタマノマ。安倍島山之アノベノシマノヤマノ
暮露尔クシロニ。旅宿得為也ツラヤドモトクニイハレ

地之知のまゝ用ひ
古へは備へ言ふ
のゝありは世傳
まゝもまゝに
く。

他より入るゝおぢらうの
ヤルキもあれはがれ

衣袖之。冠。真若之浦之。

愛子地

知を濁るをまゝせて地の熊

間無時無吾意

射去火之

山言ハ冠

能登海爾。釣為海部之射去火之光爾伊往。月待香光。

志香乃白水郎乃。前。釣。雨。燭。有。

射去火之

山言ハ冠

難波方。水手出船之遙々。別来禮杼忘金津毛。

浦回。撈。能。野。舟。泊。

○神代記は熊野
諸手船了六出雲

今本熊野舟附とて、のちつきの川を
海邊より一舟一舟と吉野の川舟の浦回

國の熊野之國十五
倭邊上其熊野
之船了六揚摩
るよみ今二首ら
志摩すてよみ
共は紀伊の熊野舟
くら何れの熊野
う定がし。

目頼志文
懸不思月毛日毛無

松浦舟。乱穿江之。

舟ハ、既ハ、○穿江、難波堀に、松浦

水尾早。撮取間無。所念鴨。

射去為海部之撮音。湯鞍干。

妹心乘来鴨。

若乃浦尔。袖左倍沾而。

貝拾跡妹者。不所忘爾。

忘

△武本哥云忘可
称都母

草枕羈西居者。苜薦之擾妹爾。不憲日者無

然海部之磯。爾苜干。名告藻之名者。告手師乎。如何相難

寸。

國遠見。念勿和備。曾風之共。雲之行如。言者將通。

此列人
保者力。

留西。人乎念爾。蜨野。吉野のあきつぎをいふ。さきけ野のさき

居白雲止時無。

△こゝに悲別哥てし標るもろくす

浦毛無去之君故。朝旦。本名

曾憲。相跡者無杆。

白細之君之下紐。吾左倍尔。今日結而名將相日之為。

白妙之袖之別者。

思亂而赦鶴鴨。京師邊君者去之乎。孰解可言。紐緒乃結手懈毛。

草枕。客去君乎。人目多。袖不振為而安。萬田悔毛。

白銅鏡。手二取持而。見常不足。君爾所贈而。

遺又後

生跡文無

陰夜之窟 田時毛不知 山越而往座君乎者

何時將待

田立名付 青垣山之隔者數君乎言不問可聞

朝霞蒙山乎

越而去者吾波將戀奈

至于相日

足檜乃山者百重雖隱妹者不忘直相左右二

雲居有海山越而伊徃名者吾者將戀名後者相宿友

不欲惠八趾 不慮登為杼木綿間山

草陰之荒蘭之崎乃 越去之公之所念良國

乎見乍可君之山道越良無

玉勝間 島熊山之 夕晚獨可君之山

道將越

氣緒尔吾念君者鷄鳴東方坂乎

日可越覽

△二三坂越良非 或法荒蘭崎を武 蔵を在りていさく へ海の山とて越 山は園ありお換 ちてはまもぞん

△一云暮霧を長恋 為乍寝不勝可母 けの上の委信山 云の字のれれし とも思ひくふまつ けーののや

何毛君之所見不來將有 柔田はよむ其の目舟乗しつゆんをす
えいよはよ目を漢く村いづるうおこす

やん家の娘が
悔いしむわ

三沙吳居渚尔居舟之 井ルヌ 井ル
既に乗居て 擲出去者裏意監

先ハふりて久しうせゆ契あれははかきすられや
しんしんはあつち何れく下きしんしんはわ
後ハいしんをくくすんぶ
しんしんはあつち何れく下きしんしんはわ
後者會宿友

玉葛無怠行核山菅乃思亂而意乍將待

後居而意乍不有者田籠之浦乃海部有申尾珠藻菊之

上末中二君意者枚浦乃白水郎有申尾玉藻菊管この末ハ均しれ二句は
美之 和梅
花野 ちうれのく吾意すハ三園生れ梅の花もちうしれゆとげ三園ハ
よ梅を派し太宰府の園をいふわこの
田籠浦ハ夫のゆき居下つていふ

筑紫道之荒磯乃玉藻菊鴨君久待不來 今いしんしんは
雅き守之くを園

三々比佐いしあ
例末のまこあわ

荒玉乃年緒永照月不厭君八明日別南

久将在君念雨久堅乃清月夜毛闇夜耳見 ヤシエノミユ
兼中し照り目
を園らん

春日在 三笠乃山爾居雲乎出見每君乎之曾念 春の
影見
さわ

足檜木之片山雉立往牟君雨後而打四雞目八方 現
かあ

ふつふのめともちうかろく死
ふんめくやんしんしんはわ

西受せしは幸ゆべし... 國の

任の朝集使... 早々筑紫乃方乎出見乍哭耳吾泣痛毛為便無三

よまきりし人... づんたのそまあ

豊國乃聞之長濱去晚日之昏去者妹食序念

豊國能聞乃高濱高々二君待夜等者左夜深來

是は格のあま... 人待まらぬ回圓の漢をいり

